

町田市学力向上推進プラン(第4次)

2022-2023



町田市教育委員会
町田市学力向上推進委員会
(2022年3月)

学力向上で



目次

1 町田市学力向上推進プランの構想図 3

2 町田市の学力

- I 学力調査からみた学力の実態 4
- II 授業の実態 6
- III 日常生活及び学習の実態 8

3 町田市の取組

- I 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 9
 - 1 学力向上推進委員会の設置
 - 2 授業をデザインする8つの取組
 - 3 「町田市スタンダード授業改善シート」の活用
 - 4 「町田市スタンダード授業改善シート」の質問項目
 - 5 授業改善推進プラン
- II ICT教育の推進 12
 - 1 実態
 - 2 町田市のICT教育～2021年度からの取組～
- III 英語教育の推進 14
 - 1 実態
 - 2 えいごのまちだ推進委員会の設置
 - 3 Machida English Promotion Staff (MEPS) の配置
 - 4 スヌーピーミュージアム校外学習の実施
 - 5 国際交流活動「イングリッシュ・フェスタ」の実施
 - 6 放課後英語教室の実施
- IV 研究指定校 16
- V 学校・家庭・地域と連携した取組 16
 - 1 放課後学習の充実
 - 2 地域の力を活用した授業づくり
 - 3 家庭学習の充実
 - 4 生活習慣の定着・規範意識の醸成
 - 5 読書活動の推進

1 町田市学力向上推進プランの構想図

教育目標 ○夢や志をもち、未来を切り開く町田っ子を育てる
○生涯にわたって自ら学び、互いに支え合うことができる地域社会を築く

今日的な教育課題

児童・生徒、教師の実態

保護者・地域の願い

町田市教育委員会が直面する課題

- 児童・生徒自身が他者と関わりながら、試行錯誤して課題を解決する授業の創造
- ICTをツールとした授業モデルの創造
- 英語によるコミュニケーション力を育成する言語活動を中心とした外国語の授業の創造

目指す子ども像

- 自ら課題を見付け、課題解決の方法を工夫しながら意欲的に学ぶ子ども
- 他者と意見の共有や対話を行い、学びを広げたり深めたりすることのできる子ども

目指す授業像

- 学習した内容を生かし、他者と交流しながら課題を解決したことを実感させる授業
- 教科等の特性及び指導内容を踏まえ、効果的にICTを活用した授業

授業をデザインする8つの取組の重点化

見通しをもたせる導入

価値ある対話の共有

振り返りの設定

ICTの活用

主体的・対話的で深い学びの実現

授業の実態

日常生活及び学習の実態

【町田市の取組】

- I 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- II ICT教育の推進
- III 英語教育の推進
- IV 研究指定校
- V 学校・家庭・地域と連携した取組

学力調査からみた実態

2 町田市の学力

I 学力調査からみた学力の実態

1 「全国学力・学習状況調査」の結果（2019年度と2021年度との比較）

※「全国学力・学習状況調査」は、2019年度から主として「知識」に関するA問題と、主として「活用」に関するB問題を一体的に問う形式に変更となっている。

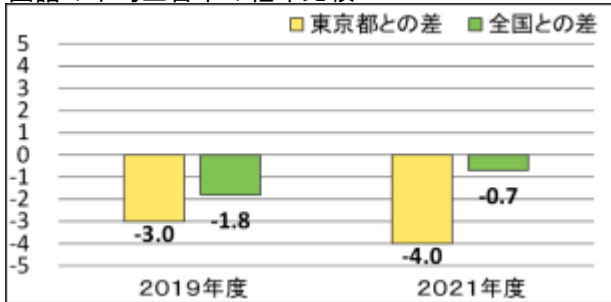
※「児童・生徒の学力向上を図るための調査」は、2021年度から質問紙調査のみ実施となっている。

小学校

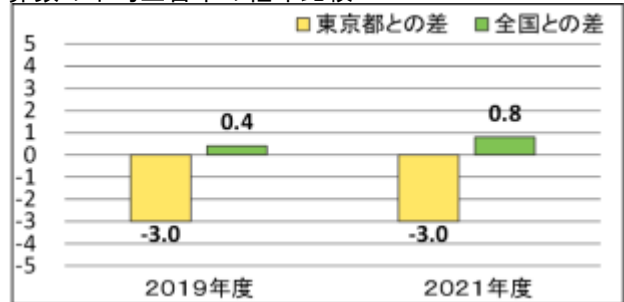
《町田市立小学校の平均正答率と都及び全国との差》（全国と比較して上回っているもの、下回っているもの）

	平均正答率					
	国語			算数		
	町田市	東京都	全国	町田市	東京都	全国
2019年度	62.0	65.0	63.8	67.0	70.0	66.6
2021年度	64.0	68.0	64.7	71.0	74.0	70.2

●国語の平均正答率の経年比較



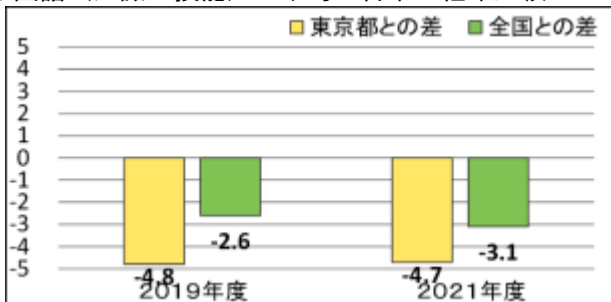
●算数の平均正答率の経年比較



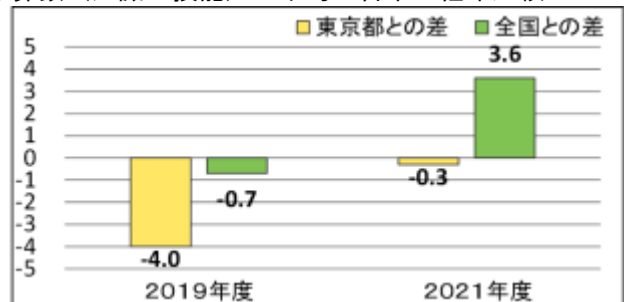
《観点別の平均正答率》（全国と比較して上回っているもの、下回っているもの）

		国語			算数		
		町田市	東京都	全国	町田市	東京都	全国
知識・技能	2019年度	50.9	55.7	53.5	71.7	75.7	72.4
	2021年度	65.2	69.9	68.3	75.3	75.6	71.7
思考・判断・表現	2019年度	67.4	70.5	69.5	62.9	65.5	62.2
	2021年度	63.6	66.4	62.1	66.0	68.3	65.1

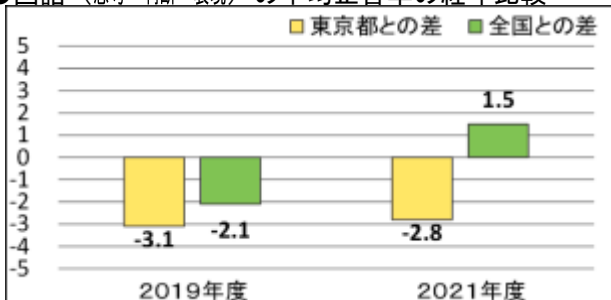
●国語（知識・技能）の平均正答率の経年比較



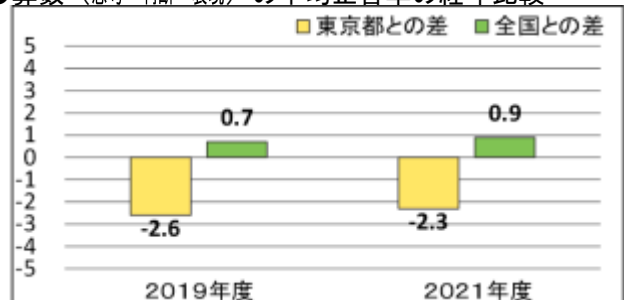
●算数（知識・技能）の平均正答率の経年比較



●国語（思考・判断・表現）の平均正答率の経年比較



●算数（思考・判断・表現）の平均正答率の経年比較

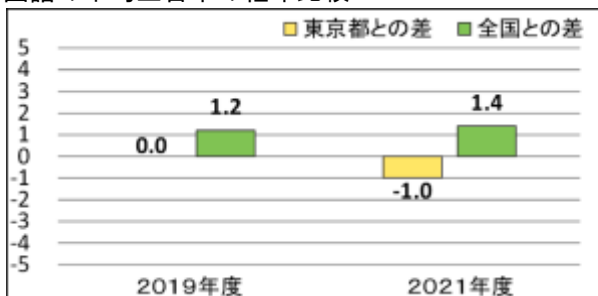


中学校

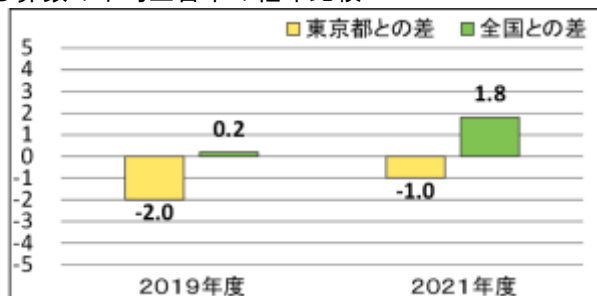
《町田市立中学校の平均正答率と都及び全国との差》(全国と比較して上回っているもの、下回っているもの)

	平均正答率					
	国語			数学		
	町田市	東京都	全国	町田市	東京都	全国
2019年度	74.0	74.0	72.8	60.0	62.0	59.8
2021年度	66.0	67.0	64.6	59.0	60.0	57.2

●国語の平均正答率の経年比較



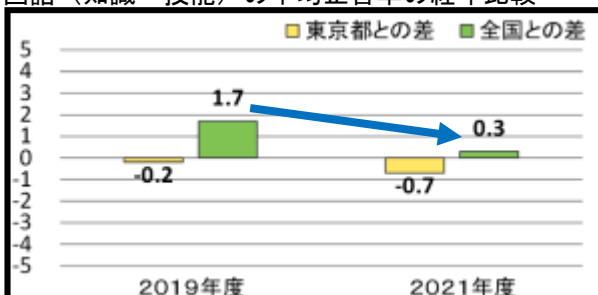
●算数の平均正答率の経年比較



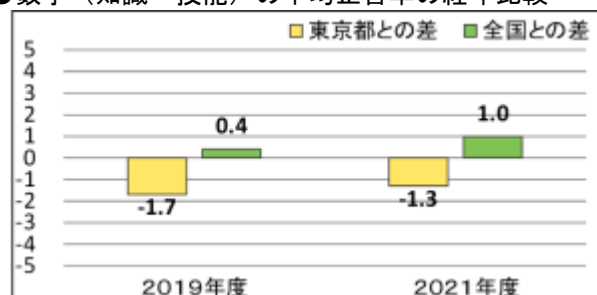
《観点別の平均正答率》(全国と比較して上回っているもの、下回っているもの)

		国語			算数		
		町田市	東京都	全国	町田市	東京都	全国
知識・技能	2019年度	69.4	69.6	67.7	54.9	56.6	54.5
	2021年度	75.4	76.1	75.1	70.6	71.9	69.6
思考・判断・表現	2019年度	74.7	75.7	74.1	51.3	52.8	51.0
	2021年度	62.5	63.5	60.5	43.0	44.6	41.1

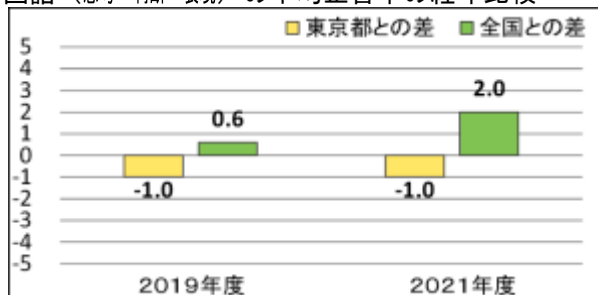
●国語（知識・技能）の平均正答率の経年比較



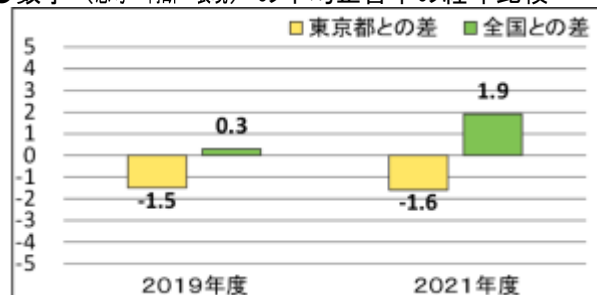
●数学（知識・技能）の平均正答率の経年比較



●国語（思考・判断・表現）の平均正答率の経年比較



●数学（思考・判断・表現）の平均正答率の経年比較



調査結果

○全国と比較し、小学校の国語の知識・技能（言葉の特徴や使い方に関する事項）の平均正答率が低い。また、中学校の国語の知識・技能の平均正答率の全国との差が2019年度と比較して1.7から0.3に下がっている。

今後の方向性

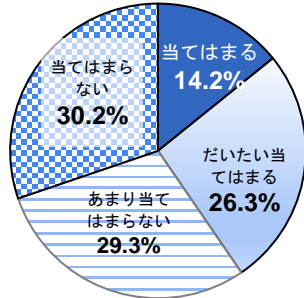
○習得させた知識・技能を活用し、課題解決を繰り返しながら、思考力、判断力、表現力を育成する授業を実践することで、知識・技能と思考力、判断力、表現力をバランスよく伸ばす。

II 授業の実態

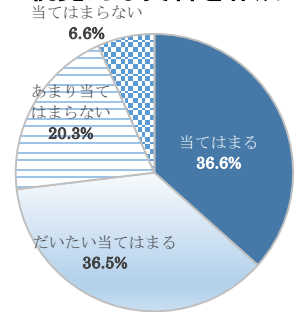
1 「町田市スタンダード授業改善シート」を活用した調査結果

町田市では、2021年9月に独自の授業の実態調査『町田市スタンダード授業改善シート』を活用した調査を市内小中学校の全教員を対象に実施し、回答結果を分析した。

○スプレッドシートやスライド、ドキュメント、フォームを活用して、児童生徒の意見の共有や集約をしている。



○児童生徒の円滑な学習を促すために、パワーポイントやスライドなどの視覚的な資料を作成している。

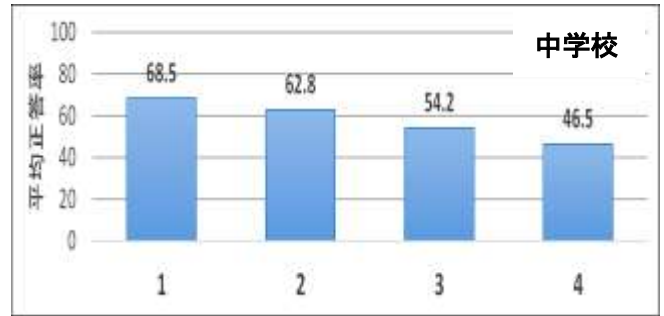
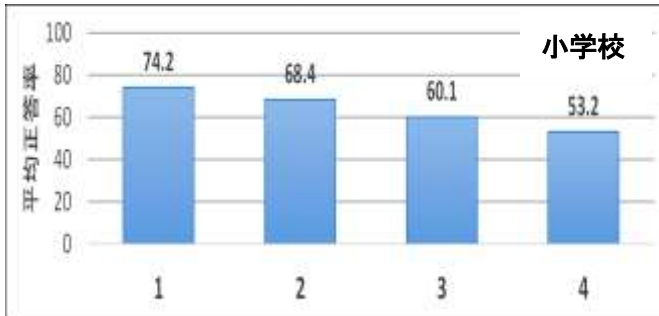


2 「全国学力・学習状況調査」の結果（2021年度） 【児童・生徒質問紙と教科の平均正答率とのクロス集計】

グラフ下部の数値の意味
 1 当てはまる
 2 どちらかと言えば、当てはまる
 3 どちらかと言えば、当てはまらない
 4 当てはまらない

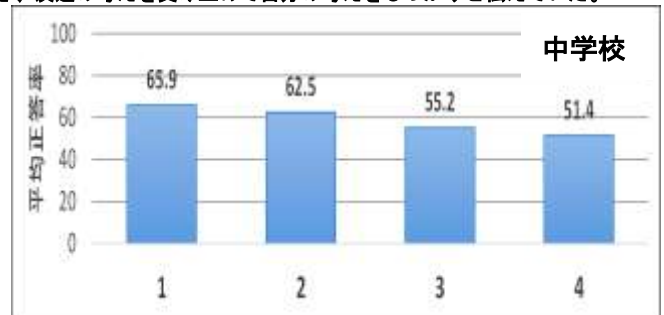
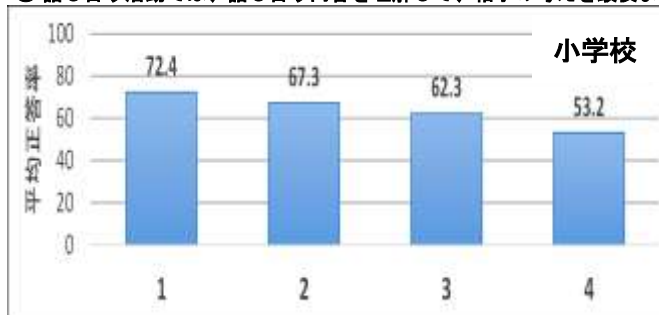
導入

○課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。



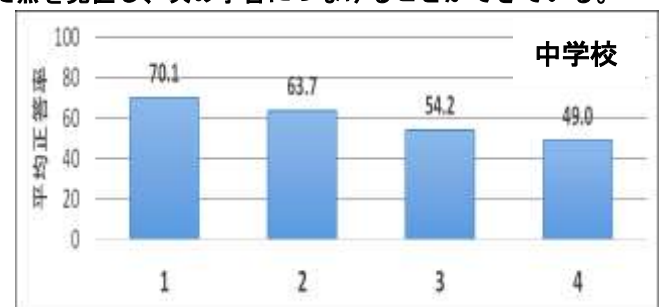
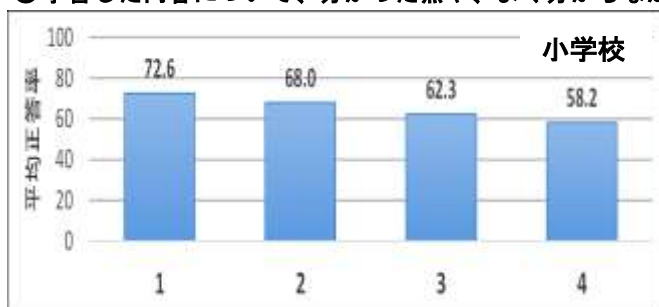
対話

○話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていた。



振り返り

○学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。



3 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果（2021年度）

児童・生徒質問紙

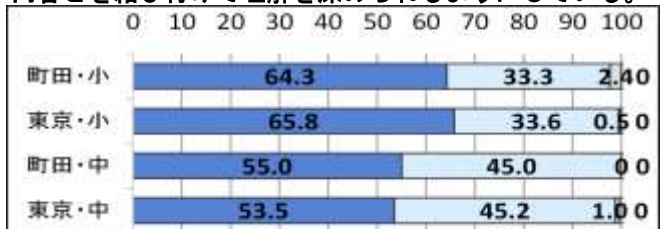
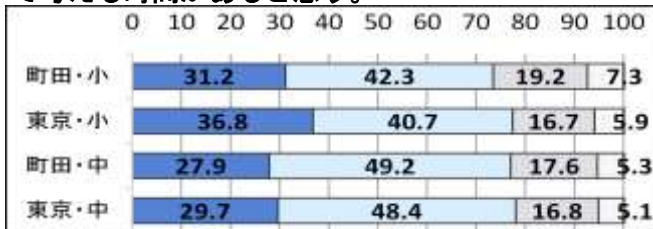
学校質問紙

■当てはまる
□どちらかといえば当てはまる
□どちらかといえば当てはまらない
□当てはまらない

「見通しをもたせる導入」

授業では、前の時間までに学習した内容と結び付けて考える時間があると思う。

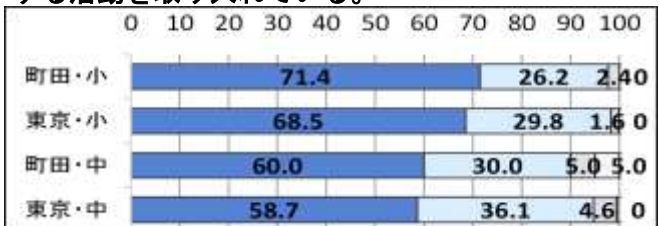
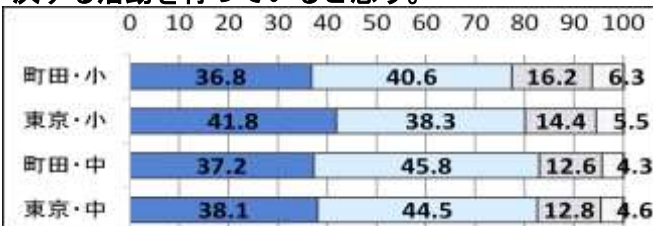
児童・生徒が前の時間までに学習した内容と本時の学習内容とを結び付けて理解を深められるようにしている。



「価値ある対話の共有」

授業では、他の人と考えを交流しながら課題を解決する活動を行っていると思う。

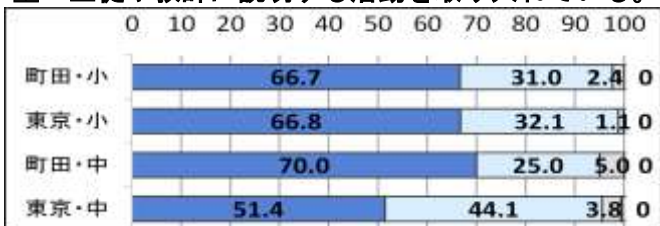
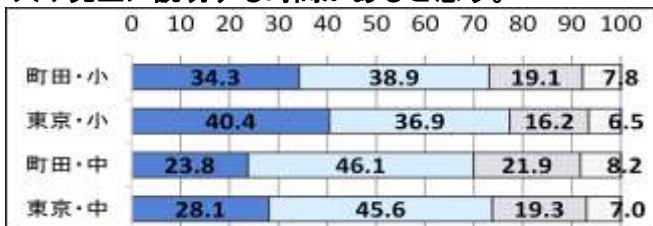
児童・生徒同士が考えを交流しながら課題を解決する活動を取り入れている。



「価値ある対話の共有」

授業では、自分が理解したことや考えたことを他の人や先生に説明する時間があると思う。

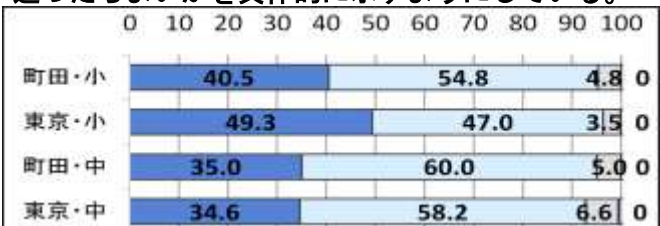
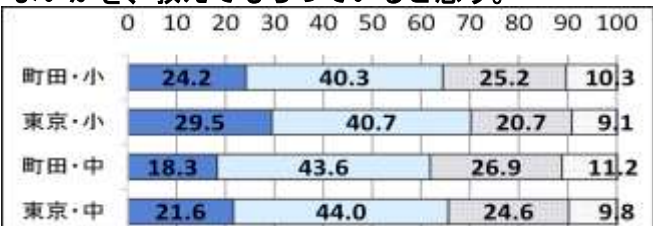
児童・生徒が理解したことや考えたことを、他の児童・生徒や教師に説明する活動を取り入れている。



「振り返りの設定」

授業では、学習した内容をどのように振り返ったらよいかを、教えてもらっていると思う。

学習した内容を振り返らせる際に、どのように振り返ったらよいかを具体的に示すようにしている。



調査結果

- ICTを全体提示では活用しているが、一人1台端末を活用した授業実践が少ない。
- 既習事項を生かしたり、他者と考えを交流したり、自分の考えを説明したりして課題解決をすることに関連する質問項目において、教員の意識は都と比較して高いが、児童・生徒の意識は都と比較して低く、肯定的な回答の割合に差がある。

今後の方向性

- 授業をデザインする8つの取組の「見通しをもたせるための導入・価値ある対話の共有・振り返りの設定」を中心とした授業改善を更に推進をする。
- マスターラーニング（教員向けICT活用サイト）の掲載内容及びICT活用研修等の研修内容の充実及び全教員のICTを活用した授業力を向上させる。

Ⅲ 日常生活及び学習の実態

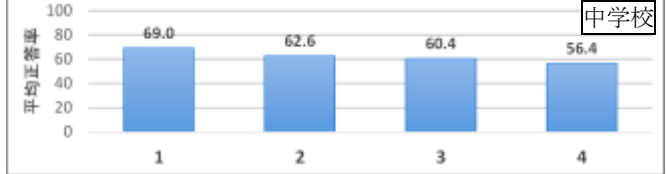
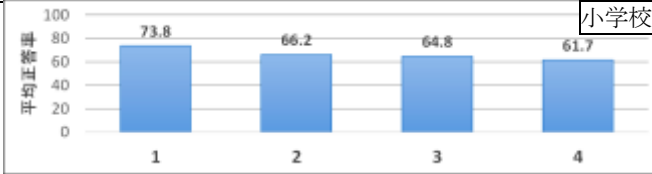
1 「全国学力・学習状況調査」の結果（2021年度）

【児童・生徒質問紙と教科の平均正答率とのクロス集計】

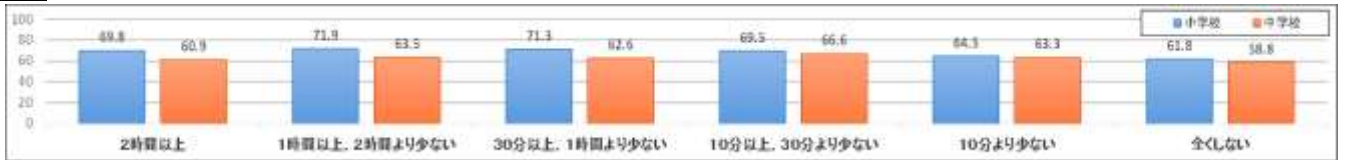
グラフ下部の数値の意味

1	当てはまる
2	どちらかと言えば、当てはまる
3	どちらかと言えば、当てはまらない
4	当てはまらない

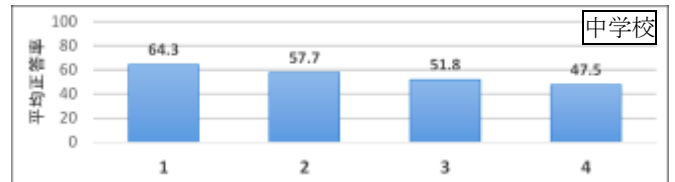
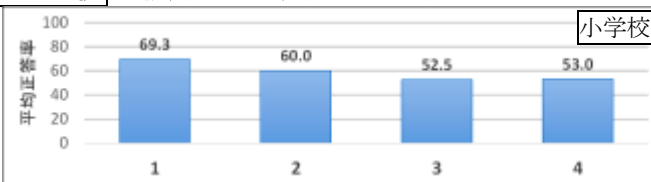
家庭学習 家で自分で計画を立てて勉強しているか。



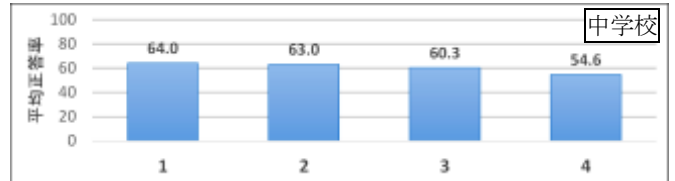
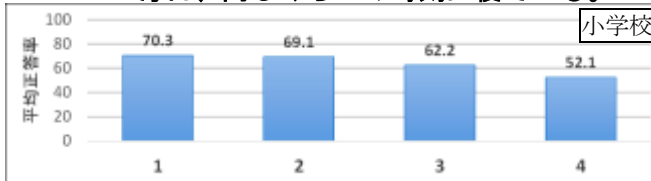
読書 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書するか。



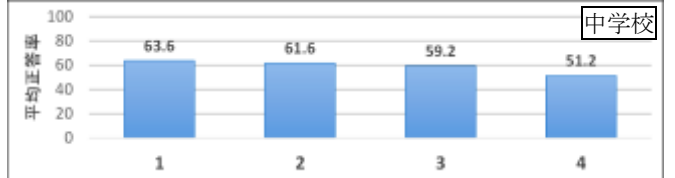
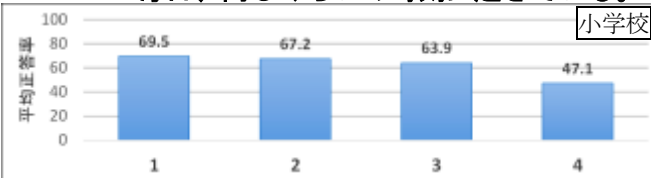
生活習慣 朝食を毎日食べている。



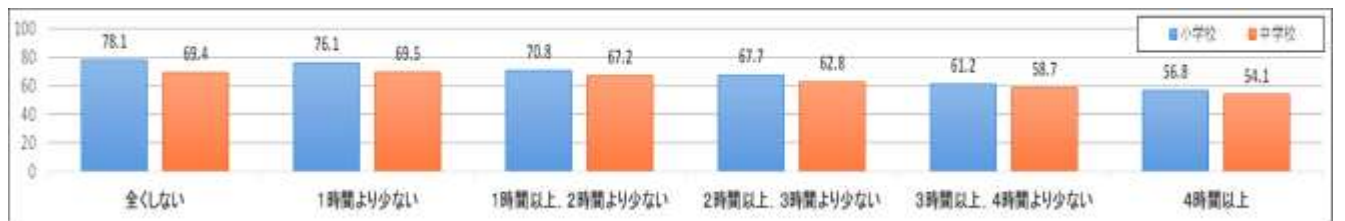
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。



毎日、同じくらいの時刻に起きている。



普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをするか。



調査結果

- 自分自身で学習の計画を立てて自宅で学習する習慣や睡眠や食事において規則正しい生活習慣が身に付いている児童・生徒の正答率が高い。
- スクリーンタイムの短い児童・生徒の正答率が高い。

今後の方向性

- 町田市における「家庭学習の手引き」を改訂し、全ての児童・生徒及び保護者への活用を推進することで、家庭学習や読書活動、SNSルールの設定への意識啓発を図る。

3 町田市の取組

I 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

1 学力向上推進委員会の設置

本市では、「主体的・対話的で深い学び」の実現を旨とした授業改善を図り、市全体の学力を向上させるため、学力向上推進委員会を設置している。

これまでに、授業改善の視点となる「授業をデザインする8つの取組」の提案、「指導力向上リーフレット」、「『主体的・対話的で深い学び』の視点に立った授業実践集」及び「町田市スタンダード授業改善シート」を作成してきた。

全国、東京都及び市独自の調査の結果から明らかになった実態や町田市教育委員会研究指定校である鶴川第二小学校、小山ヶ丘小学校、山崎中学校、小中一貫ゆくのき学園の研究成果を基に、下記の各取組の視点を改め、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業について協議するとともにモデル授業を実践し、各校の更なる授業改善に向けて提案していく。



2 授業をデザインする8つの取組～各取組の視点～

町田市の実態から、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点として、特に「見通しをもたせる導入・価値ある対話の共有・振り返りの設定・ICTの活用」を重点とする。

見通しをもたせる導入

- 児童・生徒に、何を学ぶか、どのように学ぶのか、見通しをもたせている。
- 学習の流れやめあて、進め方を提示している。
- 児童・生徒の興味・関心を高めている。
- 解決すべき課題を把握させている。

発問の工夫

- 知的好奇心をかき立てる発問をしている。
- 多様な考えを引き出す発問をしている。
- 教師が児童・生徒の思考に働きかけるような発問や、本時のねらいを達成するための発問をしている。

価値ある対話の共有

- 一人ひとりの考えを表出させている。
- 教師が児童・生徒の発言を価値付けている。
- 児童・生徒が考えたことを共有している。
- 児童・生徒が本時の学習課題を理解したり、課題を解決したりしている。

振り返りの設定

- 本時のめあてを振り返らせている。
- 学習内容をまとめている。
- 自分の言葉で本時の学習について自己評価させている。
- 自分で課題解決の手順に対して振り返ることで次時の学習の見通しをもたせている。

構造的な板書とノート指導

- ノートに書かせる内容を指示している。
- 児童・生徒の考えたことをキーワードでまとめている。
- 1時間の学習内容や児童・生徒の思考過程を可視化している。
- 考えや根拠の違いを視覚的に明らかにしている。

ICTの活用

- 導入で課題を提示したり、まとめで学習内容を確認したりして、一斉学習の場面で活用している。
- 調査活動や思考を深める学習、表現・制作などの個別学習の場面で活用している。
- 発表や意見交換などの協働学習の場面で活用している。

思考ツールの活用

- 多面的・多角的に捉えさせ、情報を整理・分析させている。
- 比較・検討・分類・統合・関連付けしながら考えたことを可視化し、操作させている。

認め合う・学び合う集団の形成

- 児童・生徒が互いに、認め合ったり、称賛し合ったりできるようにしている。
- 児童・生徒が粘り強く課題に取り組めるように、受容・称賛・励ましの言葉を掛け合っている。
- 教室掲示等、学習環境を整備している。

3 「町田市スタンダード授業改善シート」の活用

各学校では、「全国学力・学習状況調査」、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果及び「町田市スタンダード授業改善シート」を活用して明らかになった学力上の課題解決に向け、「授業改善推進プラン」を作成し、評価・分析・改善を繰り返すことによって年間をとおして授業改善に取り組む。

授業をデザインする8つの取組

- ◎見通しをもたせる導入
- 発問の工夫
- ◎ICTの活用
- 思考ツールの活用
- ◎価値ある対話の共有
- 構造的な板書とノート指導
- ◎振り返りの設定
- 認め合う・学び合う集団の形成

町田市 特別支援教育ハンドブック 授業チェックリスト

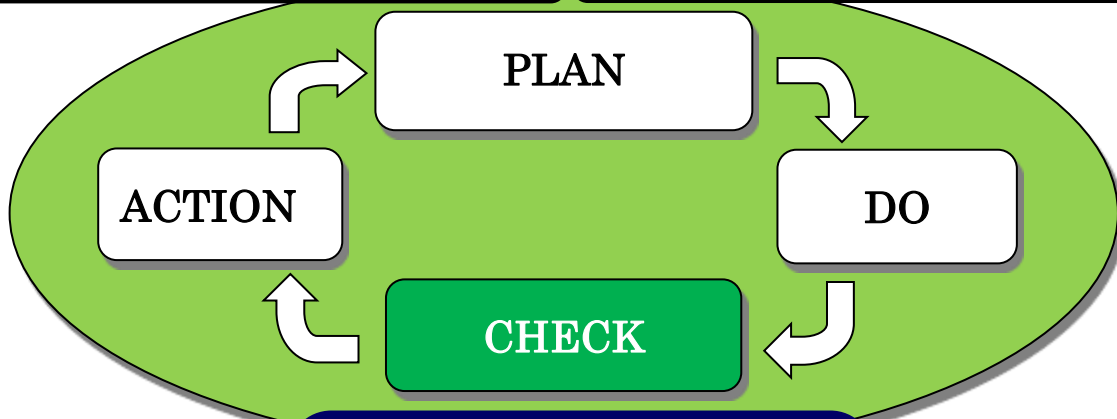
特別支援教育の視点を踏まえた授業チェックリスト (町田市版)		
学びの場を整える		
①	教室環境の作りが整備されている。	
②	授業は、学習し、思考を促すように指導している。	
③	速に声の大きさを調整的に示している。(学級全体、グループ、個人)	
④	話し方の型やパターンを示し、活用できるようにしている。	
⑤	子どもの特性、障害性に配慮した座席位置にしている。	
⑥	授業に必要な用具の準備を事前に確認している。	
⑦	授業の開始時刻と終了時刻を守っている。	
学習に引きつける・関わらせる		
⑧	全員からの注目を集めさせてから、教師が指示を出している。	
⑨	授業の流れや内容を事前に示している。	
⑩	授業のねらいをはっきりとわかりやすく提示している。	
⑪	具体的でわかりやすい言葉を使って話している。	
⑫	引きつける声の調子・声の抑揚・表情・身体表現を意識して取り入れている。	
⑬	大筋なことを、色・マーク・ライン・数字などで強調している。	
⑭	子どもの発問・返事に応じて活動の場を調整している。(書く、聞くなど)	
⑮	子どもの理解の状況に応じて問いを配りながら進めている。	
⑯	個の意見を全体に広げながら学習を進めている。	
個に寄り添った支援をする		
⑰	個々の課題に前じた支援についてあらかじめ個別・準備している。	
⑱	子ども自身が援助を請うことができる方法や、資料に対する方法を教えている。	
⑲	丁寧・穏やか・肯定的な友達への話し方を身に付けさせている。	
⑳	友達への称賛やねぎらい、拍手などを自然に行う雰囲気をつくっている。	
㉑	特別な例があることを学習みんなが認めている。	
㉒	子どもの発問に対して適切な言葉を積極的にかけている。	
㉓	「学習のめあて」の達成について、自己評価振り返りを行っている。	

主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善

「町田市スタンダード授業改善シート」

授業参観時の他者評価

授業後の自己評価



授業改善推進プラン

主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業実践

4 「町田市スタンダード授業改善シート」の質問項目

毎学期の自己評価をレーダーチャート図で表すことで、自己の変容を把握し、年度末に成果と課題を明らかにして次年度につなげることができる。自己申告等での具体的な達成目標の設定及び面接での指導・助言等に活用することで、組織的に授業実践し、PDCA サイクル化を図ることができる。

○ 全体を見通した指導計画

- 【1】 単元や題材の学習を通して、児童・生徒に身に付けさせる力を明確にした指導計画を作成している。
- 【2】 個に応じた支援について、あらかじめ検討・準備している。

○ 見通しをもたせる導入

- 【3】 一単位時間（本時）のねらいを分かりやすく示している。
- 【4】 児童・生徒の興味・関心を高め、主体的な学習を促している。

○ 発問の工夫

- 【5】 児童・生徒の好奇心や学習意欲を促すために発問を工夫している。
- 【6】 児童・生徒の考えを引き出し、思考を広げるために発問を工夫している。

○ ICTの活用

- 【7】 児童・生徒の円滑な学習を促すためにパワーポイントやスライドの視覚的な資料を作成している。
- 【8】 スプレッドシートやスライド、ドキュメント、フォームを活用して、児童・生徒の意見の共有や集約をしている。

○ 思考ツールの活用

- 【9】 児童・生徒の考えを分類、統合、比較、検討し、整理したり関連付けたりしている。
- 【10】 課題解決に向けて、児童・生徒に多面的・多角的に考えさせている。

○ 価値ある対話の共有

- 【11】 目的やテーマを明確にして、話し合いをさせている。
- 【12】 児童・生徒が自分たちで考えたことをまとめたり、解決したりする場面を設定している。

○ 構造的な板書とノート指導

- 【13】 一単位時間の学習内容が明確で、児童・生徒の思考を広げたり深めたりするために板書を工夫している。

○ 振り返りの設定

- 【14】 児童・生徒が「学習のめあて」の達成について、振り返る場面を設定している。
- 【15】 児童・生徒に次時の学習の見通しをもたせている。

○ 授業改善に生かす評価

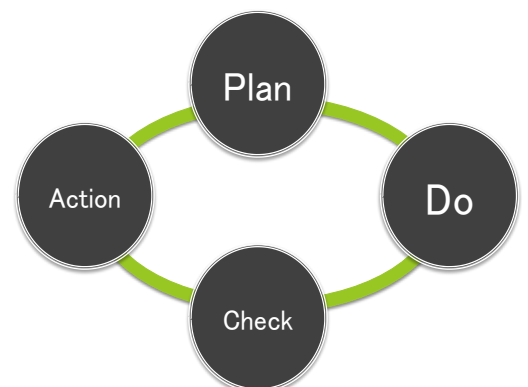
- 【16】 児童・生徒の資質能力を育むために、単元や題材の学習を通して「いつ」「何を」「どのように」評価するかを明確にしている。
- 【17】 個の学習状況を把握し、その場で支援したり、次時の授業を改善したりしている。

○ 認め合う・学び合う集団の形成

- 【18】 児童・生徒に対し、受容・称賛・励まし等の言葉を掛けて、価値付けをしている。

5 「授業改善推進プラン」作成の流れ

- (1) 授業改善推進プラン全体計画の作成 (Plan)
授業改善推進プラン全体計画を作成し、新年度に入った段階で、児童・生徒の実態に応じて改訂を行う。
- (2) 全体計画に基づいた授業改善 (Do)
各学年、各教科等において、計画に基づいて授業改善を推進する。
- (3) 全体計画の評価・改善 (Check)
全国学力・学習状況調査や学力向上を図るための調査の結果等を受けて、全体計画の評価や改善を行う。
- (4) 評価・改善した計画に基づいた授業改善 (Action)
改善した全体計画に基づいて授業改善を推進する。



1 実態

2021年秋に実施した「児童・生徒のICT活用状況調査」、教職員向けの「町田市スタンダード授業改善シート」を活用した調査から分かったICT活用状況は以下の通りである。

(1) 児童・生徒のICT活用状況

桃色・・・80%以上				灰色・・・80%未満					
学年	自分で学ぶ	友達と学ぶ	考えをまとめ表現する	学年	自分で学ぶ	友達と学ぶ	考えをまとめ表現する		
小学校	第1・2学年	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を使い、課題に応じて個別学習を進めることができる <p>80.8%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友達が書き込んだ文章を読んで感想をもつことができる <p>30.6%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを手書き入力や音声入力で書き込むことができる タブレット端末を使い、写真を撮ることができる <p>47.3%</p>	中学校	第1学年	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を活用し、自分の目標に応じた課題を選択しながら、個別学習に取り組むことができる 検索機能を使って、複数のWEBページから必要な情報を見つけることができる <p>81.0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決を目指し、協働編集機能を活用しながら話し合い、より良い考えを見付けることができる <p>40.4%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 必要な情報を目的に応じて集め、まとめる方法を適切に選択することができる 自分の考えを分かりやすく伝えるために、表やグラフを用いて情報を整理することができる <p>81.0%</p>
	第3・4学年	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を使い、課題の中で自分のめあてを設定して、個別学習に粘り強く取り組むことができる 検索機能を使って、教員の示したWEBページを見つめることができる <p>88.7%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友達が書き込んだ意見と自分の意見を比べて、同じ所や違うところを見つけることができる <p>59.8%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ローマ字入力で自分の考えを書き込むことができる 自分の使いたい画像を取り込んで、資料を作成することができる <p>70.0%</p>		第2学年	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を活用し、自分の目標に応じた課題を選択しながら、個別学習に取り組むことができる 目的に応じて、情報の真偽を考えながら、適切に検索することができる <p>81.4%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決を目指し、協働編集機能を活用しながら話し合い、複数の計画を立案・評価することができる <p>54.7%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事実や根拠に基づき、論理的・客観的に分析・判断したことを伝える資料を作成することができる <p>79.3%</p>
	第5・6学年	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を活用し、自分に必要な学習めあてを考えながら、個別学習に取り組むことができる 検索機能を使って、WEBページから必要な情報を見つめることができる <p>87.1%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決を目指し、協働編集機能を活用しながら話し合い、より良い考えを見付けることができる <p>68.4%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 必要な情報を目的に応じて集め、まとめるとともに、他者に説明することができる 自分の考えを分かりやすく伝えるための資料を作成することができる <p>87.1%</p>		第3学年	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を活用し、進路を考えながら課題や目標を設定し、個別学習に取り組むことができる 目的に応じて適切に検索し、多角的に情報を収集することができる <p>79.8%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決を目指し、協働編集機能を活用しながら話し合い、情報を統計的に整理し、考察することができる <p>45.6%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事象を、情報とその結びつきの観点から捉え、批判的に考察し、判断したことを伝える資料を作成することができる <p>74.1%</p>

タブレット端末で学習ドリルソフトを使用したり、課題に対して自分で調べたことをスライドやドキュメントにまとめたりすることに活用することが多い。一方で端末を使って「友達と学ぶ」ことについては、「自分で学ぶ」「考えをまとめ表現する」ことよりも、利用が少ない。

また、2021年度から小学校5年生以上に1教科ずつ学習者用デジタル教科書を導入した。導入された学習者用デジタル教科書については、20%程度の利用と活用が進んでいない状況が分かった。

(2) 教職員のICT活用状況

「ICT機器の活用」に関連した質問項目は、以下の2項目である。

- ① 児童・生徒の円滑な学習を促すために、パワーポイントやスライドなどの視覚的な資料を作成している。
- ② スプレッドシートやスライド、ドキュメント、フォームを活用して、児童・生徒の意見の共有や集約をしている。

①については、73.1%の教員が取り組んでいると回答している。②については、40.5%の教員が取り組んでいると回答した。どちらの項目についても、昨年度末に実施した調査の数値よりは、上昇している。教員のタブレット端末活用については、個人の教材提示に活用されることが多くなっている。

調査結果

- 主体的、対話的で深い学びにつながる児童・生徒の意見の共有や集約に、タブレット端末が十分に活用されていない。
- 学習者用デジタル教科書等、個別最適化をねらったドリルソフトの活用について、活用に差がある。

今後の方向性

A 一斉学習

挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となります。

▶A1: 教員による教材の提示



画像の拡大表示や書き込み、音声、動画などの活用

B 個別学習

デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った速度で学習することが容易となります。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となります。

▶B1: 個に応じる学習



一人一人の習熟の程度に応じた学習

▶B2: 調査活動



インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録

C 協働学習

タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となります。

▶C1: 発表や話し合い



グループや学級全体での発表・話し合い

▶C2: 協働での意見整理



複数の意見・考えを議論して整理

▶B3: 思考を深める学習



シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習

▶B4: 表現・制作



マルチメディアを用いた資料、作品の制作

▶B5: 家庭学習



情報端末の持ち帰りによる家庭学習

▶C3: 協働制作



グループでの分担・協働による作品の制作

▶C4: 学校の壁を越えた学習



遠隔地や海外の学校等との交流授業

1 効果的なタブレット端末の活用を推進する。

「主体的、対話的で深い学びにつながる児童・生徒の意見の共有や集約に、タブレット端末が十分に活用されていない。」という課題を解決するために、効果的なタブレット端末の活用推進に取り組む。

タブレット端末の機能を使うと、学級の児童・生徒の意見を共有したり、集約したりすることが容易に行える。その結果対話が活性化され、深い学びにつながっていくと考える。

上記の図の「C 協働学習」の実践を授業の中で積極的に行う。

〈積極的に取り組みたい学習活動〉

C1: 発表や話し合い

自分の考えをタブレット端末でまとめ、分かりやすく提示することで、話し合いを活性化する。

C2: 協働での意見整理

ICTを用いて児童・生徒の意見共有し、話し合いを通じて思考を深めながら共同で意見整理を行う。

C3: 協働制作

タブレット端末を活用し、グループで分担したり、協働で差誤用しながら制作する。

2 学習ドリルソフト、学習者用デジタル教科書の活用を推進する。

学習ドリルソフト、学習者用デジタル教科書のようなデジタル教材のメリットを生かし、従来の指導方法の中に効果的に組み入れて、活用する。

〈デジタル教材のメリット〉

(1) 学習ドリルソフト

学習履歴や学習に取り組んだ時間の記録が取得されるため、児童・生徒の不得意なところをつかみ、指導に生かすことができる。児童・生徒が自立した学びを実現しやすい。

(2) 学習者用デジタル教科書

音声の再生ができる。教科書の図や文字を拡大することができる。

Ⅲ 英語教育の推進

1 実態 「全国学力・学習状況調査」の結果（2021年度）

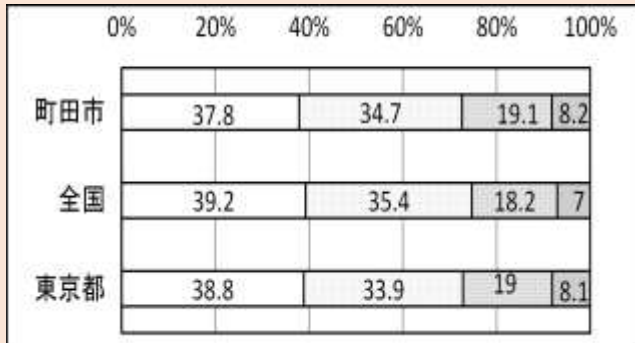
児童生徒質問紙

※左から児童・生徒の回答内容「発表していた」「どちらかといえば発表していた」「どちらかといえば発表していなかった」「発表していなかった」「考えを発表する機会はなかった」の順に並んでいる。

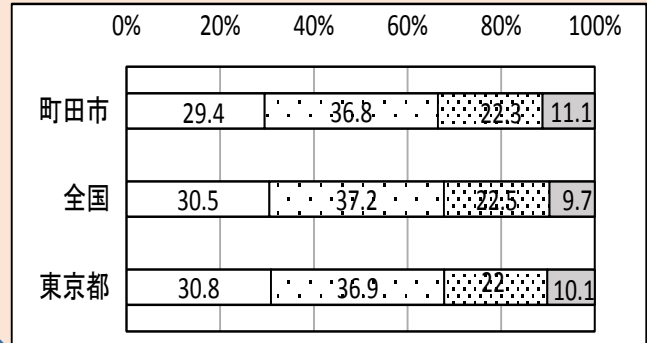
5年生までに受けた英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか。

1、2年生のときに受けた英語の授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか。

【小学校】



【中学校】



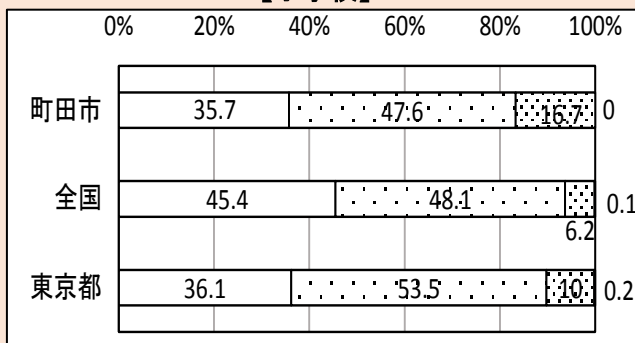
学校質問紙

※左から学校の回答内容「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の順に並んでいる。

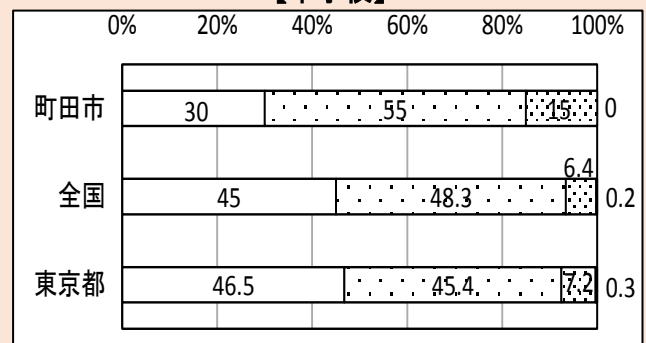
英語の指導に当たって、前年度までに、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合う（対話的な）活動に取り組みましたか。

英語の指導に当たって、前年度までに、英語で話したり書いたりして、生徒自身が互いの考えや気持ちを伝え合う（対話的な）活動に取り組みましたか。

【小学校】



【中学校】



調査結果

- 英語の授業の中で自分自身の考えや気持ちを伝え合う場面が少ない。
- 習得した知識及び技能を活用して、考えや気持ちを伝え合う体験を通して、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う言語活動中心の授業改善の推進及び授業以外で英語に慣れ親しむ体験活動や放課後学習の機会の設定と内容を充実させることが必要である。

授業

えいごのまちだ推進委員会の設置

町田市教育委員会研究指定校である南つくし野小学校が研究した成果を基に、小学校の外国語科授業モデルを構築する。また、小学校外国語活動・外国語（英語）と中学校の外国語（英語）の円滑な接続を図るための『中学校外国語（英語）導入期カリキュラム』を推進するとともに、英語教育のより一層の充実を目指した授業の在り方について協議する。また、デジタル版実践事例集を作成し、小・中学校における先進的な授業実践を市内に広める。

Machida English Promotion Staff (MEPS) の配置

小学校の教員がALTに頼らず、自信をもって担任単独型の授業ができるようになるよう英語教育のエキスパートによる支援を行う。

<授業前>

授業計画のアドバイス、
使用教材の作成など

<授業中>

デモンストレーション、
児童の個別支援など

<授業外>

模擬授業の実施、
校内研修の講師など

体験

スヌーピーミュージアム校外学習の実施

外国語の時間に学んだ力を活用して、話したり、聞いたり、読んだりする活動を通して、英語に関する意欲を向上し、英語によるコミュニケーション力を高める。

<スヌーピーミュージアム>

ミュージアム内の展示物を鑑賞しながらワークシートのクイズに答えていく。

<まちライブラリー>

英語の説明を聞いて『Peanuts』のキャラクターを描く。

国際交流活動「イングリッシュ・フェスタ」の実施

ALTに対して、授業で慣れ親しんだ表現を実際に活用し、英語を話したり伝えたりする楽しさや喜びを味わわせる。「使う英語」の楽しさを実感する活動を設定する。

<異文化に触れる体験>

ALTとのやり取りや体験を通して、外国文化へ理解を深める。

<ミッション達成型リアル生活体験>

ミッションを解決する活動を通して、英語でのコミュニケーション力を高める。

放課後

放課後英語教室の実施

英語を楽しく学びたい小学校2年生から5年生を対象に、学習指導要領に基づいた独自のカリキュラムに沿って、聞くことと話すことだけでなく、初歩的な読み書きについて学ぶ場を設定する。

Ⅳ 研究指定校

町田市教育委員会研究指定校については、町田市の教育課題を解決するために研究課題を設定し、学力向上・健康教育・豊かな心の育成・その他の教育課題に関する内容について引き続き研究を推進する。

町田市教育委員会研究指定校
【2年間】

学力向上に関する研究、外国語・外国語活動に関する研究、体育・健康教育に関する研究、豊かな心を育むための研究、その他の教育課題に関する研究などの課題を解決するために、研究主題を設定し研究に取り組む。研究の成果として発表を行い、成果を還元することで町田市の教育の質的向上に寄与することを目的とする。

2020年度	2021年度
<ul style="list-style-type: none"> ・南つくし野小学校（2年次）：外国語科・外国語活動の指導 ・鶴川第二小学校（2年次）：教科横断的にメタ認知を働かせる学び方の開発 ・小山ヶ丘小学校（2年次）：道徳教育を土台とした豊かな心の育成 ・山崎中学校（2年次）：陰山メソッドを活用した学力向上の取組 ・小中一貫ゆくのき学園（2年次）：小中連携による学力向上の取組 	
2021年度	2022年度
<ul style="list-style-type: none"> ・小山小学校（2年次）：総合的な学習の時間・生活科の学習を通じた豊かな心の育成 ・忠生中学校（2年次）：健やかな体の育成を目指した取組 	
2022年度	2023年度
<ul style="list-style-type: none"> ・南第一小学校（1年次）：キャリア教育に関する研究 ・大蔵小学校（1年次）：豊かな心を育むための研究（多層指導モデルMIMを活用した研究） ・忠生小学校（1年次）：豊かな心を育むための研究（hyper-QUを活用した研究） ・七国山小学校（1年次）：豊かな心を育むための研究（hyper-QUを活用した研究） 	

Ⅴ 学校・家庭・地域と連携した取組

1 放課後学習の充実

《事業概要》児童・生徒の学力向上、学習習慣の定着のため、放課後における学習活動支援を充実させる。放課後学習支援では、地域人材の有無など、地域の実情・支援に応じた様々な実施方法の検討を行う。

小学校：まちとも

中学校：未来塾

- 学習ドリルソフトnavimaを使用した学習
- 学習ボランティアによる学習指導
- 基礎的な学習内容につまずきのある子どもたち一人一人の課題に応じた指導



2 地域力を活用した授業づくり

地域の方々による
「ふるさと教育」



茶道協会の方々による
日本文化の学習



- 保護者や地域の方々、学生等の学校支援ボランティアを活用した授業づくり
- 多様な交流を通じて、実社会に裏打ちされた幅広い知識や能力の習得



地域連携担当教員を中心とした組織体制を構築し、地域力を活用した授業づくりを推進する。

3 家庭学習の充実

「宿題や予習・復習に主体的に取り組めるように、家庭学習への意識啓発を図る実践」

「全国学力・学習状況調査」の結果から、「家で自分で計画を立てて勉強している」という質問に対し、よくしていると回答している児童の正答率が、全くしていないと回答している児童と比べて12.1ポイント高く、家庭での学習習慣の確立は、学力の向上には有効であると言える。学校の授業と家庭での宿題や予習・復習の取組を効果的に結び付けることで、学習内容が一層定着する。家庭学習の習慣を身に付けるためには、子ども自身の努力はもちろん、学校と家庭が互いの役割を理解し合うことが大切である。与えられた課題をこなす学習から、子どもが自分で目標を決めて取り組む学習へと発展できるよう、学校と家庭が連携し、家庭学習への意識啓発を図ることで、子どもが自分から取り組み、続けて取り組む学習習慣の確立を目指す。

○学校では、東京ベーシック・ドリル等を活用する。

○家庭では、自分の興味・関心のある課題を調べてノートにまとめるなど、調べ学習に取り組む。

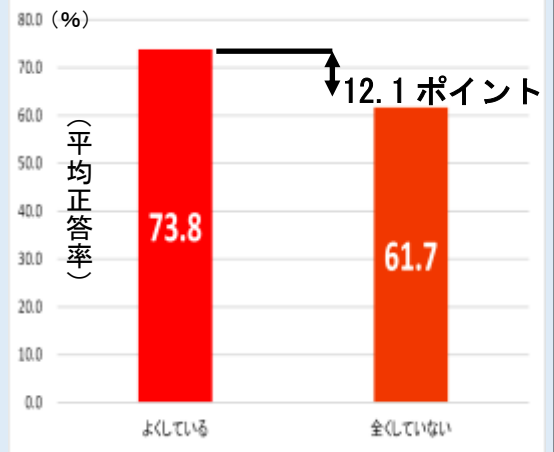
例：環境副読本の活用。

オリンピック・パラリンピック読本の活用。

防災ノートの活用。

＜家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）＞

令和3年度全国学力・学習状況調査結果（小学校）



(※正答率は、国語、数学の平均値)

4 生活習慣の定着・規範意識の醸成

「規則正しい生活習慣を身に付ける取組の実践」

「全国学力・学習状況調査」の結果から、規則正しい生活習慣や規範意識を身に付けることは、学習活動を支える基盤をつくり、学力向上にもつながってくる。計画的な時間の使い方を身に付けることや集団社会の一員として、よりよい人間関係を築こうとする態度を育て、規範意識を高めるようにします。

○家庭では、早寝、早起き、朝ご飯を心がける。

○家庭では、テレビを見る時間、ゲームで遊ぶ時間を決めて守る。

○学校、家庭では、スマートフォン、あるいは携帯電話を持たせている場合、使う時間や使い方など、SNSルールを作る。

○学校では、様々な活動において子どもが役割や責任を果たしていく場を多く設定し、自分の力を発揮して活躍できるようにしていく。

例：テレビ・ゲームは1日〇時間と使用時間を決める。

携帯電話やスマートフォンなどは、1日の利用時間と終了時間を決める。

5 読書活動の推進

「家で本に親しむ時間の設定」

読書は使える言葉を増やし、言語の感覚を豊かにして考える力の育成につながる。学校での読書活動について家庭に発信し、家庭でも町田市立図書館の利用を通して、本に親しみ、読書が身近になるように意識啓発を図り、読書習慣が身に付くようにする。

○学校では、読書週間、本の読み聞かせ、朝読書の時間など本に親しむ時間の設定する。

○家庭では、親子で本の読み聞かせをしたり、一緒に本を読む時間や場を設定したりするなど、読書を身近に感じるようにする。

例：親子で20分間読書する。

休日に一緒に図書館に出かける。